

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600236		
法人名	有限会社 マーフア企画		
事業所名	グループホーム はなかわ		
所在地	〒061-3261 石狩市花川東1条3丁目12番地 (電話) 0133-76-2877		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】 (平成21年1月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 10 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷金	有 (35,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	395 円	昼食 395 円
	夕食	395 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (1月5日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やしま内科消化器科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、小規模な地域特性を活かし、市の担当者との協働、近隣病院のデイケア利用、災害時の協力体制等、地域社会資源との連携を図っている事業所である。ボランティアの受け入れ、行事外出とともに、日々の献立にも利用者の食欲増進を図る工夫をし、利用者の楽しみとなっている。また、協力医療機関との連携も十分に図り、週に2回の往診、緊急時の相談に加えて、眼科通院、訪問歯科利用等医療面でも行き届いた事業所である。管理者および職員は、常に利用者の尊厳を重視したケアの実践に努め、その人らしい暮らしやペースを大切にしながら、きめ細かいケアの提供に日々取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の課題であった、「事業所独自の理念の作成」「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」については、事業所内部の努力や、運営推進会議や地域資源の活用、地域との連携の強化を通して具体的な改善策が講じられている。その他の改善課題については、引き続き改善への取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価にあたっては、全職員での取り組みを目指しているが、現状では管理者と一部職員が自己評価を行うにとどまっている。自己・外部評価の意義を全職員が理解する機会を設けるとともに、評価を日ごろの介護実践を振り返る機会として活用し、より良い介護実践に繋げることが期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会長や地域住民、介護保険課の担当者、家族の参加を得て2ヶ月毎に開催する運営推進会議では、事業所からの活動報告を行うとともに避難訓練や災害時の協力態勢の整備に向けて、活発な意見交換をしている。会議内容は会議録に整理され、いつでも閲覧できる体制にはなっているが、職員全員の周知までには至っていない。会議内容については、職員全員が共有し、サービス向上に向けてさらなる活用が期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>2ヶ月毎に発行する事業所便りでは行事や全体的な生活状況を記載するとともに、個別の状況を知らせる欄を設けて、日ごろの暮らしぶりや健康状況を報告している。金銭出納状況は使用明細と領収書を添えて家族に送付している。行政その他の苦情受付機関を紹介するとともに運営推進会議への家族参加を呼びかけ、参加時の意見・要望等を討議内容に加えて運営に反映させるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、お祭りや自治会等の地域行事に、積極的に参加している。また、地域のボランティアを受け入れ、多彩な交流に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、尊厳を保持しつつ、その人らしい当たり前の暮らしを保障する事業所独自の理念を作り上げている。また、その理念を事業所内に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規職員採用時には、理念を伝えるとともに、会議やミーティング時に、理念を確認し、共有することを通して、日々の介護実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、お祭りや自治会などの地域行事に積極的に参加している。また、地域のボランティアを受け入れ、多彩な交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にあたっては、全職員での取り組みを目指してはいるが、現状では、管理者と一部職員のみが、自己評価を行うにとどまっている。	○	自己・外部評価の意義について全職員が理解する機会を設けるとともに、評価を日ごとの介護実践を振り返る機会として活用し、より良い介護実践に繋げることも期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や地域住民・市の介護保険課の担当者・家族の参加を得て、2ヶ月毎に開催する運営推進会議では、事業所からの活動報告を行うとともに避難訓練や災害時の協力態勢の整備に向けて活発な意見交換を行っている。	○	会議内容は、会議録として記録し、いつでも閲覧できる体制にはなっているが、職員全員の周知までには至っていない。会議内容については、職員全員が共有し、サービス向上に向けてさらに活用することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と事業所の交流は活発であり、職員が市主催の意見交流会に参加したり、市の担当者が事業所の行事に参加・見学するなど、十分な連携を図りつつ、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月毎に発行する事業所便りでは行事や全体的な生活状況を記載するとともに、利用者それぞれの状況を知らせる欄を設けて、日ごとの暮らしぶりや健康状況を報告している。金銭出納状況は、使用明細と領収書を添えて、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置するとともに、行政その他の苦情受付機関を重要事項説明書に明記し、利用を促すよう説明している。また、運営推進会議への家族参加を呼びかけ、参加時の意見・要望等を討議内容に加えるなど、事業所の運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び、管理者は、利用者が馴染みの職員による支援を受けることの重要性を認識しており、両ユニットの職員が、利用者全員と関わる工夫をして、職員交代時のダメージの軽減に取り組んでいる。また、運営者は、利用者との信頼関係形成に積極的に関与し、急な離職等があった場合には、利用者のフォローに努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規に採用した職員には、力量に応じて1ヵ月程度の研修期間を設け、1対1の態勢でケア実践の指導をしている。また、事例をもとに管理者による指導も行っているが、計画的な職員育成に向けた研修体制が整うまでには至っていない。	○	職員の力量に応じた段階的な研修受講の機会を確保し、内外の研修資料や記録を整備することが、望まれる。また、勉強会や伝達講習を通して職員全体への内容周知を図り、知識や技術が共有できる態勢整備が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市が、ネットワーク作りを推進中であり、地域の同業者主催の勉強会に参加し、交流しながら、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、利用者本人・家族と十分に面談した上で、納得の行くサービス利用となるように努めている。利用開始前の見学や、希望に応じて事業所内で一緒に食事する機会を設け、その場の雰囲気を理解したり、職員に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の気持ちを尊重し、本人のことは見守りながら過ごすように努めている。職員は利用者と相談したり、また、教えられたり、時には労られたりしながら、ともに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、利用者一人ひとりの希望や思いを汲み取るように努めている。デイケアの利用等、これまでの生活の仕方を継続できるように支援し、利用者本意の暮らしの実現に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの際に、日々の状態変化を記入した個別記録をもとに利用者一人ひとりに応じた具体的な介護計画を作成している。利用者・家族の思いや、担当医の意見、職員のアイデアも反映させながら作成した介護計画は、本人・家族の同意を得て、居室内に掲示し、プランに沿ったケア実践に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の定期見直しを行うとともに、実施状況を個別記録に記載してモニタリングを行っている。利用者に状況変化が生じた場合には、その都度、現状に見合った計画として機能するよう介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院の同行支援や理美容院の付き添い、デイケアの利用支援など、地域資源を活用しながら、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回、かかりつけ医による訪問診療を受けるとともに、必要に応じて眼科や歯科の受診を支援し、適切な医療が受けられる態勢を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けた指針を定め、利用開始時に、家族に説明し、同意書を交わしているが、状況変化に伴って、かかりつけ医の見立てをもとに再度話し合う機会を設け、今後の方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に応じて、対応の仕方を工夫しつつ、一人ひとりの尊厳や、プライバシーに配慮した接遇に努めている。面会簿も個人情報として扱い、安易に目に触れる事がないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの希望やペースを尊重し、本人が納得できるその人らしい暮らしが送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の掲示、希望の反映、懐かしい食材の利用など、食事が楽しみなものとなるように工夫している。職員とともに和やかに食卓を囲み、利用者それぞれの力量に応じて後片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯など、利用者の希望に応じた入浴支援に努め、必要に応じて足浴、シャワー浴などを行っている。デイケアでの入浴の他に、週4回は、入浴の機会を設けて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量に応じて、食事の後片づけや掃除等の家事活動や、花鉢の手入れ、畑仕事、編み物等の趣味活動で力を発揮できる機会を設けている。また、筋力トレーニングや外食等、気晴らしや楽しみのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の健康状態に配慮しながら、希望に応じて散歩・買い物に出かけている。また、外食や花見などの行事外出、図書館の利用やドライブ等、日常的な外出支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は、玄関の施錠はしていない。各ユニットの入口には、鈴を設置して、開け閉めがわかる工夫をし、利用者が外出した場合には、職員がそっと付き添うようにして、自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し、消防署から指導を受けている。災害時には、消防署や職員に自動通報が行くように火災通報装置が設けられている。また、運営推進会議での協力要請の働きかけから、災害発生時には、近隣施設との協力・連携態勢ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量を個別に記録し、栄養バランスに配慮した献立作成に取り組んでいる。一日あたりの摂取カロリーは概ね1300kcalで、毎月体重測定しつつ、過不足のない食事の提供に努めている。また、利用者の嗜好を献立に反映し、楽しみながら必要量を摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、家庭的で落ち着いた雰囲気となるように調度や装飾等に配慮し、季節感のある生花を常に絶やさぬよう工夫している。そこは、利用者がそれぞれのお気に入りの場所で穏やかに過ごせるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、使い慣れた家具やテレビ・冷蔵庫・仏壇等の生活用品が希望に応じて自由に持ち込まれている。それぞれが使い勝手の良い配置を工夫し、居心地良く安心して過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。